

序章 事業目標

- 目的：半島地域は三方を海に囲まれ、高速交通体系から遠いなど、地理的・自然的に不利な条件に置かれる一方、半島特有の資源を活用した地域活性化の取組も各地で行われている。地域活性化の担い手となる団体・グループの活動強化・深化や発展を促すとともに、新たな取組や意欲ある地域人材の発掘等を図り、半島地域活性化の多様な担い手を育成する。
- 内容：【半島担い手形成プログラム事業】ワークショップと座談会を通じ、半島地域の活性化を担う人材・主体の意欲やスキルの磨き上げ半島地域内の人材ネットワークを強化する。
【半島のじかん2013 in TOKYO】半島各地で活動する民間、行政、有識者・専門家など多様な主体が一堂に会し、それぞれがもつ経験、知見を持ち寄り、半島が共通して抱える課題や活動テーマに関する意見交換等を行うことで、相互の出会いや学び、ネットワーク形成を促進する。

第1章 半島地域における担い手に関する課題

1. 半島及び地方圏における担い手に関する共通課題

- ・コミュニティ活動の既存組織が少子高齢化等で減退
- ・NPOなど目的志向・課題解決型組織はまだ少ない
- ・半島全体におよぶネットワークはまだ形成されていない

2. 昨年度調査からの課題

- ・座学だけの学習では地域課題に対応できない
- ・特定の個人が役割を担っていくことは難しく、リスクもある

3. 今年度の課題

地域課題に即して、本事業終了後にもプラットフォーム及び活動・事業が継続発展していくための基盤づくりを行い、地域力の強化をめざす。具体的には、

- ①地域課題に対応するネットワーク型組織の形成を意識した場づくり
- ②PDCAを通じた実践的能力の向上
- ③事務局やアドバイザー等による地域課題の点検整理と適切なハンズオン

の3点を本年度事業における課題とする。

第2章 「半島担い手育成プログラム」設計と実施報告

- 要件
 - 対象：NPO、半島地域の住民、自治体等
 - 要件：地域づくりに取り組んでいること
 - 活動支援：50万円以内
 - 募集期間：平成24年7月13日～27日

丹後地域 | 琴引浜鳴き砂文化館

テーマ：京丹後掛津の明日を考える
琴引浜の環境保全、地域活性化と一体となった着地型観光の実行プラン、推進体制づくり。

伊豆中南部地域 | 富士常葉大学

テーマ：松崎石部棚田の保全
持続可能な石部地区をつくるための、棚田と地域資源を活かした体験交流事業の「仕組み」と体制づくり。これに対する地域住民－外部支援者の合意形成と協働関係の強化。

薩摩地域 | 鹿児島国際大学

テーマ：南九州市川辺高田で地域ビジネスおこしプロジェクト
半島集落における若者人材と連携した地域資源を活用した地域活性化アイデアの検討と地域ビジネス起業。

第3章 「半島担い手育成プログラム」事業成果の検証

- 基本スキーム
 - 【1】情報収集・企画設計
 - 【2】ワークショップ(2～3回)
 - 【3】座談会(1回)
 - 【4】成果報告会・半島のじかん2013 in TOKYOへの参加

・若者グループや女性グループが中核メンバーに意欲を認められ、やる気がアップした。
・将来の具体的な目標を掲げチャレンジがスタートした。

・地域の宝として石部棚田を再評価した。
・棚田保全のボランティア「いしび隊」が組織化され、担い手体制ができた。
・地域の各組織間の意思疎通が改善され、イベント時の連携協力が可能になった。

・学生の意欲に任せて現地活動をさせたことで、結果的に学生個人と地区住民個人との“顔の見える関係”が生まれた。
・プレイヤーは学生、支援するのは地域という関係で事業を構想、次年度も継承。

- 評価できる点
 - ・プラットフォーム志向にもとづく、多様な人材・多世代の参加が促進され、地域の将来像を考えるための包括的な議論を展開できた。
 - ・地域内の閉塞や意見の違い等を整理しつつ、課題への共通認識、各担い手自身の関わり・役割を認識できた。

- 改善が望まれる点
 - ・プログラム終了後の継続に対する支援があれば活動に弾みがつく。
 - ・行政等による中間支援の関与に期待が寄せられる。

第4章 「半島のじかん2013」の実施と成果検証

○日時：平成25年2月2・3日
○場所：東京・秋葉原「3331アーツチヨダ」

■ねらい 昨年度の半島のじかんのコンセプトである「半島への関心・認知を喚起する」から今年度はさらに一歩進め、「半島の価値向上、活性化に対する継続的な支援・協力を引きつける」ことをめざし、都市住民など顔の見えるパートナーの掘り起こしを図るとともに、半島の地域活性の取組や担い手の発信を行い、都市と半島との「対話」の機会とした。

<p>キーノートスピーチ 半島と都市がつながる新しい社会へ</p> <p>都市問題は都市だけでは解決できず、農山漁村の問題も振興策だけでは解決しない。自治を通じて自分たちの生活をつくり、人との関係を再構築する必要性が提示された。</p>	<p>セッション 半島×都市。新しいつながりを語り合おう</p> <p>新しいつながりとはどのようなものか、新しいつながりはどうつくるか、そしてつながりをつくるために自分は何をするか、ワールドカフェ形式により、参加者間の対話を深めた。</p>	<p>セッション 共感コミュニティをつくりひろげる～東松浦「虹の松原」の場合～</p> <p>仲間同士のつながり、地域でのつながり、そして地域の外へと共感を広げていくために、私たちはどうしたらよいか。つながりづくりの極意を参加者とともに考えた。</p>	<p>半島の地域活性プロジェクトの発信</p> <p>担い手プログラムなど半島における地域活性の取組について取組主体自身が発表する場を設け、担い手間の交流を深めるとともに知見の共有を図った。</p>	<p>デザインによる半島の発信</p> <p>半島の価値や魅力を都市に伝えるため、デザイナー等の協力のもと、半島の活動や担い手の姿を表現する「もの」「人」等の展示を行うとともに、デザイン活用のノウハウを学んだ。</p>	<p>■半島と都市の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッションその他の対話を通じて、半島の多様な資源、魅力に対する興味や喚起され、結びつきや共感が生まれた。 ・都市部においては、今回の新たな出会いを通じて、特産品の取扱など新しいビジネスチャンスにつながる可能性も。 <p>■半島と半島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半島で活動する人材同士の交流と活動する者としての共感、動機づけの場。 ・学びとノウハウ獲得につながることも、異なる視点・知見をもった他地域人材との出会いから、新たな刺激や気づきを得た。 ・半島の活動人材にとって、継続的な交流の基盤となりつつある。
---	--	---	--	--	--